

沖縄県民にとって正月にならぶ一大イベントである旧盆を終え、9月に入りました。二十四節気では処暑や白露など夏の終わりが印象づけられる時候ですが、まだまだ盛夏は続いています。最高気温が35℃を超える「猛暑日」や40℃以上の「酷暑日」とは基本的に縁の無い沖縄ですが、夏は沖縄が最も沖縄らしい季節でもあります。暑さに負けずに季節感を味わいたいものです。一方で本稿執筆時点では令和8年熊本地震への対応が救命・救助から避難生活の構築・支援のフェーズに入っており、医療やライフライン、避難生活支援など様々な立場で職責を果たされている方々の心を慮らずにはられません。自分なりの支援のあり方についても考えたいと思います。

今月号の沖縄県医師会報では2期目を迎えた田名会長によるこれまでの振り返りと今期に向けた意欲の表明が報告されています。沖縄県医師会の向かう先を会員の先生方と共有しながら議論が深まればと思います。また、別の報告記事で沖縄県医師会医学会総会の概要が紹介されています。3つの教育講演の抄録も掲載されており、参加できなかった方々にとっても参考にしていただける内容となっています。沖縄県医

師会定例代議員会の報告記事では会長挨拶、各議案の審議に加えて沖縄県医師会の組織率についての代表質問と答弁が掲載されています。A会員の高齢化が進む一方で勤務医（B・C会員）の若手層が今後の組織基盤を担う重要な存在であるとの報告は大変興味深く、様々な取り組みを始めていることが紹介されました。

その他、琉球大学麻酔科の中村清哉先生による慢性疼痛患者の診療・治療における心理テストの有用性に関する生涯教育の記事や県慢性期医療協会会長に就任された玉城仁先生のインタビュー記事に加えて、県立中部病院救急科の西山隆先生による救急医療に関する記事も興味深く拝読しました。少子高齢化で働き手が減少する中、「労働力を増やして救急医療を維持する」という選択肢はすでに消滅しているのご指摘は多くの皆様に納得していただけるのではないのでしょうか。未来に向けた処方箋については是非ご一読いただきたいと思います。

盛夏の中で体調を崩されている高齢の方も増加しているように思います。自分も若いとは言えない年代ですが、様々な問題への関心を維持しながら日々の診療に向き合いたいと思います。

広報委員 山川 研

